

再評価調書(再々評価)

事業名	一級河川穂谷川 河川改修事業				
担当部署	都市整備部河川室河川整備課中小河川G(06-6944-9297)				
事業箇所	淀川合流点～枚方市杉地先				
再々評価理由	再評価後5年を経過した時点で継続中				
事業概要	目的	穂谷川流域では、上流部では枚方津田団地等の開発が進められるなど、流域の市街化が著しく、また、氾濫域が枚方市街地で人口資産の集積度が高いことから、洪水による被害を防止し、豊かな生活環境を築くため、河川改修を進める。			
	内容	【全体計画】 河川延長 L=約7.7km(1/100年確率) 目標流量:210m³/sec(1/100年確率 時間雨量76.0mm) 護岸工:約7.7km、道路橋:12橋、堰:9基 【河川整備計画】 河川延長 L=約3.5km(1/100年確率:3.2km,1/10年確率:0.3km) 目標流量:210m³/sec(1/100年確率 時間雨量76.0mm) 130m³/sec(1/10年確率 時間雨量51.9mm) 護岸工:約3.5km			
	事業費	全体事業費:約82億円(約82億円)内投資済事業費:約74億円(約66億円) (内訳)調査費約3億円(約3億円)(内訳)調査費約2億円(約1億円) 用地費約10億円(約10億円) 用地費約9億円(約8億円) 工事費約69億円(約69億円) 工事費約63億円(約57億円)			
	()内の数値は前回評価時点のもの	【事業費の変動理由】	【工事費の内訳】		
	事業費の変動要因	変更無し 護岸工 約52億円 道路橋 約10億円 堰 約7億円			
	維持管理費	【他事業者との協議状況】道路管理者と適宜協議を実施。 【再評価時に予測した事業変動要因の状況】道路管理者等との協議内容により事業費の変動の可能性がある 【計画変更の予定】特になし			
	上位計画	約10百万円/年(実績等に基づく算定)			
	関連事業	淀川水系淀川左岸ブロック河川整備計画(H15.4) 「大阪府都市基盤整備中期計画(案)改定版」(H17.3)			
事業の進捗状況	経過	事前評価時点(S55)	再評価時点(H15)	再々評価時点(H20)	分析
	事業採択年度	S55	S55	S55	工期が延びたのは用地交渉が難航しているためであるが近年地元協議で理解が得られている
	事業着工年度	S55	S55	S55	
完成予定年度	H23	H23	H28[25]	[]内は河川整備計画	
進捗状況	全体計画 整備延長(1/100年確率) L=7.7km 河川整備計画 整備延長(1/100年確率) L=3.2km 整備延長(1/10年確率) L=0.3km	用地 70% <1295㎡/1850㎡> 工事 86% 全体計画 整備済延長(1/100年確率) L=2.5km(32%) 河川整備計画 整備済延長(1/100年確率) L=1.1km(34%) 整備済延長(1/10年確率) L=0.1km(33%)	用地 90% <1665㎡/1850㎡> 工事 91% 全体計画 整備済延長(1/100年確率) L=2.5km(32%) 河川整備計画 整備済延長(1/100年確率) L=1.1km(34%) 整備済延長(10年確率) L=0.1km(33%)	改修済箇所から氾濫防止が図れる。	

今後の事業進捗の見通し	河川整備計画に従い早期に上渡場橋下流までを1/100年確率の大雨による洪水を安全に流下できるよう改修を完了させ、下流部を1/100年確率の大雨による洪水を安全に流下できるよう改修に着手する。 【新たなコスト縮減や代替案等の可能性】特になし。
-------------	---

事業目的に関する諸状況	事前評価時点	再評価時点	再々評価時点	分析
	河川改修事業 ・想定氾濫区域 1,028ha ・浸水戸数 約14,600戸	河川改修事業 ・想定氾濫区域 675ha ・浸水戸数 約23,000戸	河川改修事業 ・想定氾濫区域 570ha ・浸水戸数 約19,200戸	解析手法変更に伴い想定氾濫区域及び浸水戸数が減じた。
事業を巡る社会情勢の変化	・流域の市街化の進捗に伴い、浸水被害の防止が望まれており、改修事業についてはおおむね協力的である。	・ふるさとの川整備事業に採択され、整備および維持管理については、地元自治体や住民の協力のもとで計画を推進していく。 ・河川整備計画時における地元住民の関心も高く、おおむね協力的である。	・同左	・おおむね順調に推移している。
地元等の協力的体制				

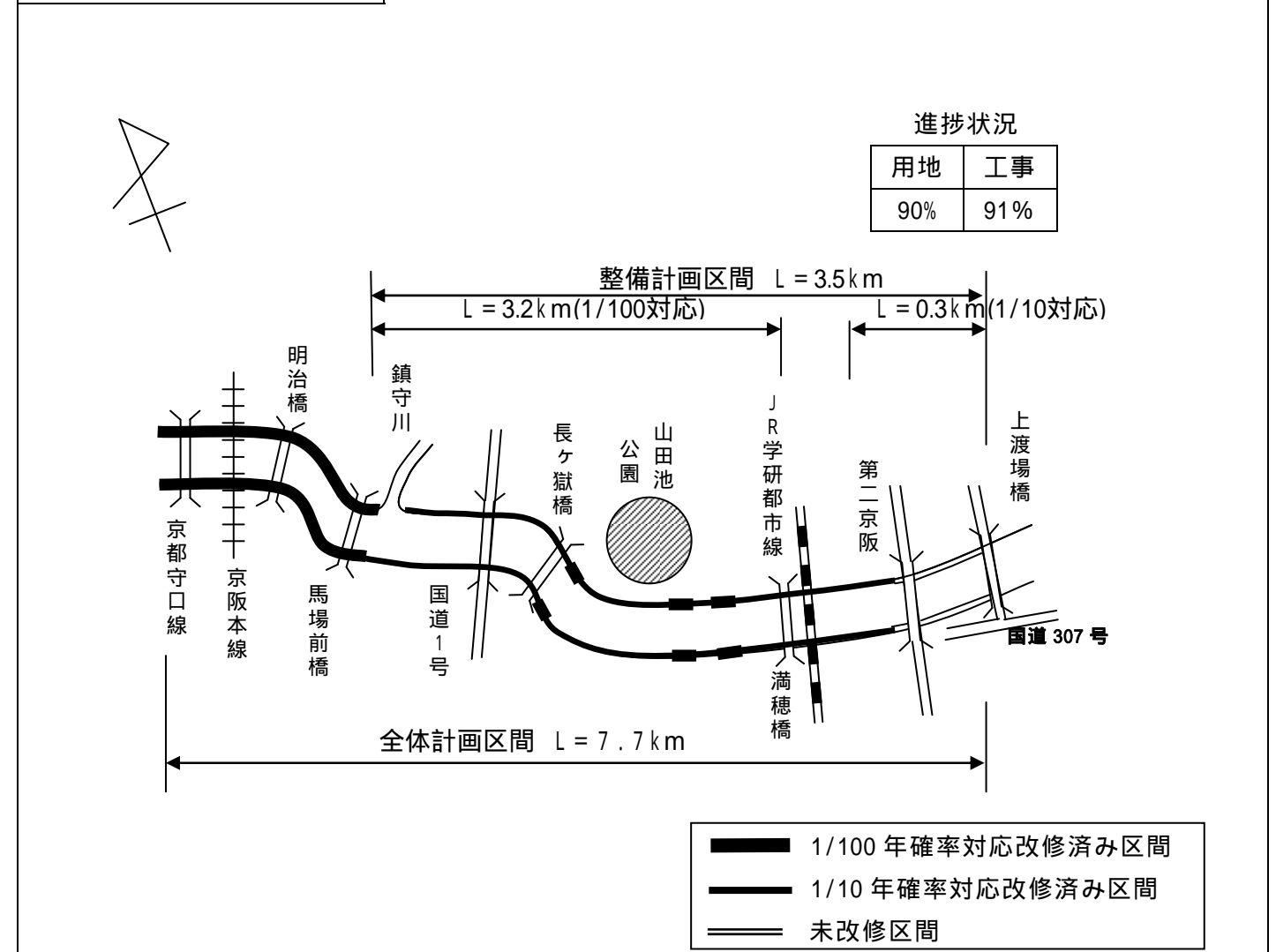
	事前評価時点での想定		再評価時点での状況	再々評価時点での状況(変更点)	分析
		備考			
事業効果分析	費用便益分析	下記、代替指標による	<ul style="list-style-type: none"> B / C = 50.9 便益総額 B = 6672.3億円 総費用 C = 131.2億円 費用便益算定の根拠：治水経済調査マニュアル(案) 平成12年5月 	<ul style="list-style-type: none"> B / C = 50.3 便益総額 B = 4638.1億円 浸水被害軽減便益 4638.1億円 総費用 C = 92.2億円 建設費 90.7億円 維持管理費 1.5億円 費用便益算定の根拠：治水経済調査マニュアル(案) 平成17年4月 	B/Cが前回評価時に比べ低下したのは解析手法変更に伴い想定氾濫区域及び浸水戸数が減じたため。
	その他の指標(代替指標)	<ul style="list-style-type: none"> C / B = 15.7 年平均被害軽減額 B = 5.0億円 総事業費 C = 77.6億円 	<ul style="list-style-type: none"> 便益内容：資産被害抑止効果 受益者：周辺住民、農業従事者 事業効果算定の根拠：「河川局所管国庫補助事業に係わる全体計画の認可について」 		
	定性的分析	<ul style="list-style-type: none"> 浸水被害の軽減(生命・財産) 	<ul style="list-style-type: none"> 浸水被害の軽減(生命・財産) 交流拠点の形成 親水施設の設置、利用(緩傾斜護岸の設置等) 景観形成 緩傾斜護岸により在来種を用いた緑の復元を行い、河畔林を伴う堤防天端を利用した自然巡回路の設置等を行うことにより、河川周辺環境との一体感を形成する 	<ul style="list-style-type: none"> 浸水被害の軽減(生命・財産) 交流拠点の形成 親水施設の設置、利用(緩傾斜護岸の設置等) 景観形成 緩傾斜護岸により在来種を用いた緑の復元を行い、河畔林を伴う堤防天端を利用した自然巡回路の設置等を行うことにより、河川周辺環境との一体感を形成する 河川整備計画の策定により、地元住民の意見を反映した改修事業を実施している。 	河川改修の実施区間では治水安全度の向上が図られるとともに、都市河川として身近な水辺空間を提供する。さらに、周辺環境に配慮した改修を行うことにより、地域との調和の取れた水辺環境を確保している。
自然環境等への影響と対策	枚方市街地の急激な膨張、沿川の都市化により、従来の治水重視の立場から、自然環境の保全と民生の安定を第一義とする治水対策が必要となることから、洪水を安全に流下させるため、おおむね全区間でブロック積護岸による改修を実施する。	おおむね全区間でブロック護岸による改修が実施されているが、中流部山田池公園や左岸堤防天端を利用した河畔林を伴う自然巡回路と緩傾斜護岸を利用した在来種による緑の復元など、河川周辺の自然環境と一体感を感じさせる空間づくりを行い、河川環境の影響について配慮している。	同左	従来の河川環境を確保し、おおむね周辺環境と一体となった整備が行われている。	
その他特記すべき事項				河川の水位情報、浸水想定区域公表。	
前回評価時の意見具申・府の対応方針の概要	<ul style="list-style-type: none"> 【意見具申】 【府の対応方針】 	<ul style="list-style-type: none"> 【意見具申】本事業については、「事業実施は妥当」と判断する。 【府の対応方針】『事業実施』とする。 	<ul style="list-style-type: none"> (前回評価に対する具体的な取組み)引き続き事業の進捗に努める。 		

一級河川穂谷川 河川改修事業概要図

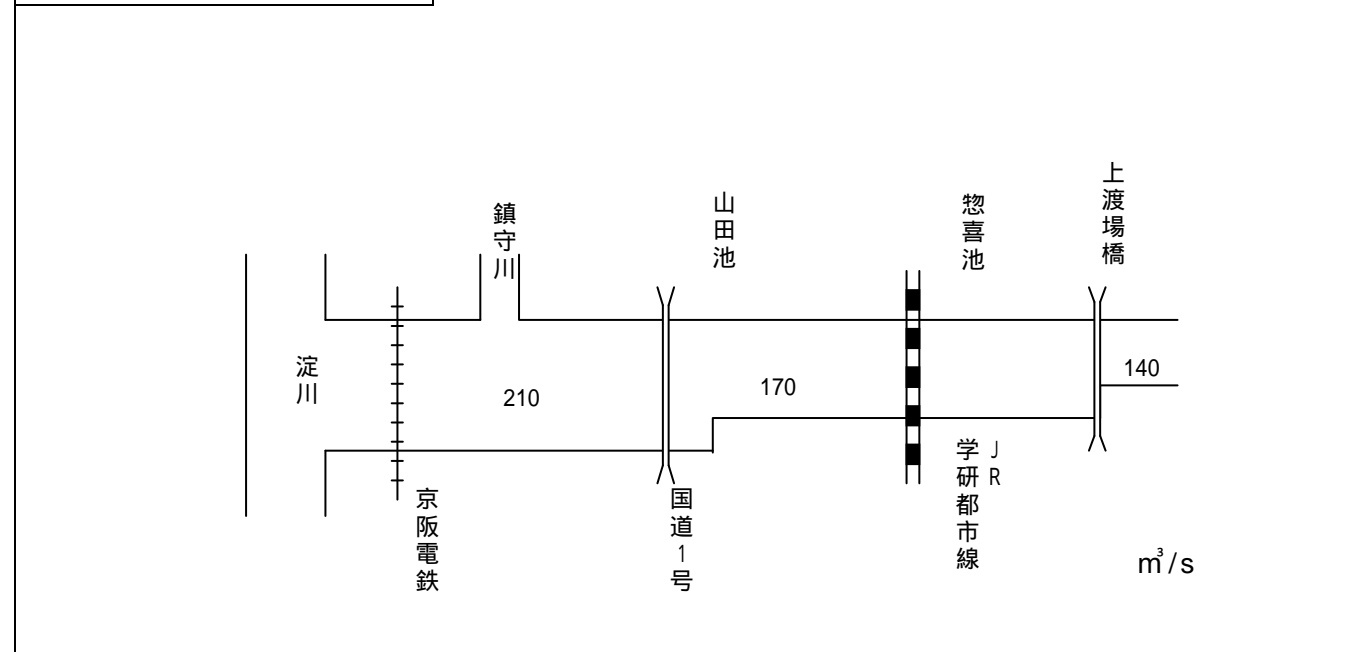
事業箇所図



平面図



流量配分図



標準断面図

